

問寒別地区・地域コミュニティ形成事業

令和7年2月6日(木)

幌延町のご紹介

【基本情報】

- ・国調人口：2,371人（2020）
- ・住基人口：2,042人（24.12末）
- ・世帯数：1,181人（住基同月末）
- ・高齢化率：31.9%（653人）
- ・面積：571.10km²
- ・基幹産業：酪農業

稚内市（てっぺん）

宗谷本線

旭川市

札幌市

幌延町

幌延周辺集落
301人

幌延市街地
1,768人
※2020国調

幌延市街地（本町）

字上問寒

字中間寒

問寒別地区
302人

字問寒別

問寒別市街地

幌延市街地
⇄ 問寒別市街地

- ・車：30分（25km）
- ・鉄道：30分（普通3往復）

町出張所（生涯学習セ）、消防分遣所、小中学校、保育所、商店1、郵便局、農協支所、PG場、GS、公住、JR駅

猿払村

中頓別

中川町

幌延町・地域コミュニティ形成事業（集落支援・モデル問寒別地区）

集落の現状と課題

人口減少、少子高齢化、小家族化などにより、集落の活力や担い手が不足し、生活する上での必要な機能が失われつつある

問寒別地区	S30	S35	S55	H7	H22	R2	R12	R22
世帯数	519	520	336	188	165	151	-	-
人口	2,856	2,584	869	542	390	303	268	233

目標

目指すもの：持続可能な地域集落

いつまでも暮らし続けられる地域集落づくり

実現への方策：「小さな拠点」形成と「公共私連携」

①集落支援センター：地域が真に望む機能の提供拠点

②地域運営組織(NPO法人)：集落支援センター運営主体

あゆみ

年	取組概要	内容	体制	国道等支援
R元	集落対策取組開始	地域連携・課題把握	企画政策課：1名 集落支援員：3名	・道交付金
R2	実験的取組開始	協力隊（1期）導入 地域交通実験、住民ヒア	企画政策課：2名 集落支援員：3名 協力隊：2名	・道交付金 ・過疎交付金
R3	基礎調査収集分析	役場業務等棚卸し調査 事業者団体ヒア、暮らし応援隊実験、 住民懇談会開始	企画政策課：2名 集落支援員：3名 協力隊：1名	・道交付金 ・過疎交付金
R4	本格懇談・ビジョン策定	道総研（北総研）研究協力契約 地域づくり基本構想策定 地域づくりビジョン策定	企画政策課：4名 （地域対策室：専3、兼1） 集落支援員：2名 協力隊：1名	・地域振興派遣1名 ・道総研（北総研）研究協力契約
R5	ビジョン推進・組織準備形成	小規模多機能自治講演会 先進地視察（島根雲南市） 協力隊（2期）、組織設立準備会	住民生活課：4名 （専3、兼1） 集落支援員：3名 協力隊：2名	同上
R6	組織創業・支援体制整備	NPO法人設立総会（4/16） 道認証（6/13）、登記（7/1） 地域活動実験拠点改修	同上	・同上 ・過疎交付金

組織のしくみと活動内容・支援体制

チエック

(2) 審議会（地区の全体会議）

(1) 地域運営組織(NPO法人ミナといかん)

《協議機能》課題検討

考える場

【総会】意思決定

①正会員10人以上

【理事会】事業執行

理事3人以上
監事1人以上

《実行機能》取組実行

実践する場

【実行部門】職場

②【職員】企画実行
・事務局+スタッフ

③【協力者】地域住民
・賛助会員等

【実施】交通、草刈等

ニーズ

(3) 地域住民・団体

地域の意見を集める井戸端会議

サービス・対価

住民のお手伝い

協力・応援

～ 例えば、こんな地域活動を行います ～

①住み続け支援：デマンド交通、草刈り、除雪など

②公共空間等管理：公共施設、公園などの草刈りや除雪、インフラ管理等

③交流教育：団体活動・地域行事支援、サロン見守り、果樹園、といかん市等

④民間事業支援：地域のしごと支援のしくみ

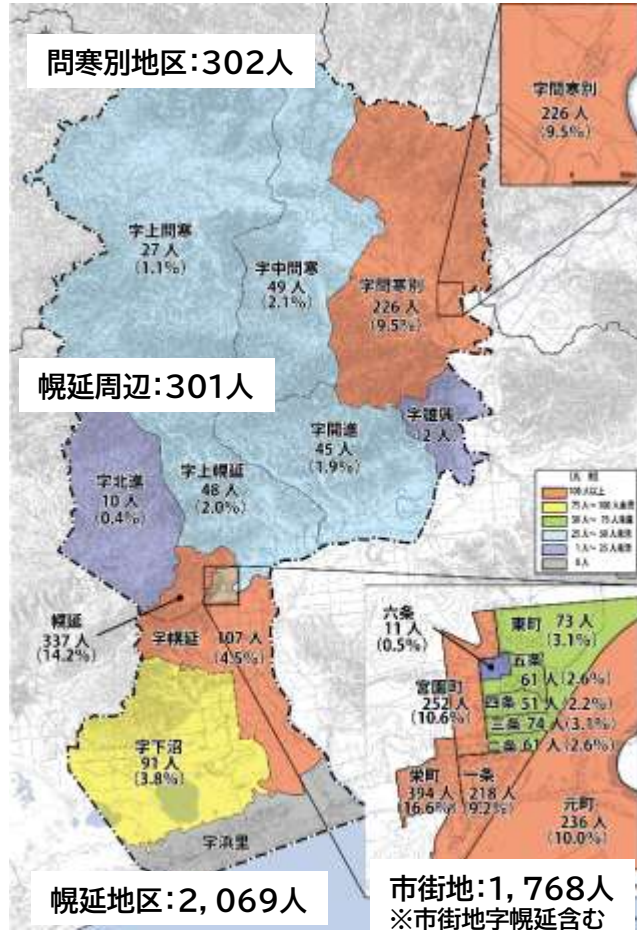
(町支援)

○地域運営組織運営支援(R6～)、地域運営本格拠点整備(R7～)
・町交付金補助金、業務委託、協力隊配置、支援のしくみづくり(条例等)

(参考 1) 幌延町行政区別人口分布の将来予測

令和2年(2020)国勢調査人口分布

・人口:2,371人

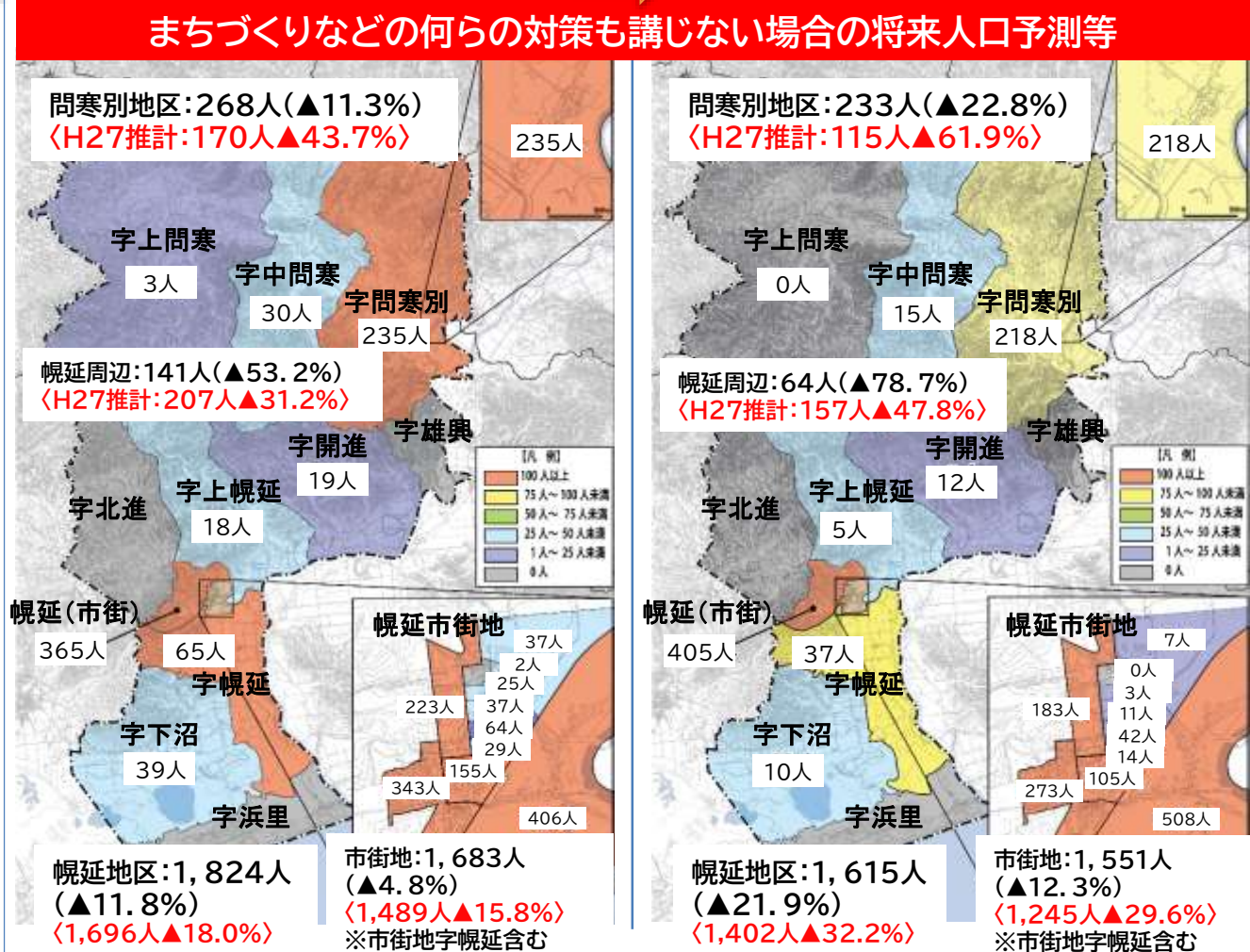


※R2国調データ人口推計留意事項

元町地区	住基	国調
R2.10.1各統計値人口	112	236

令和12年(2030)人口分布予測

・人口:2,092人(社人研)〈H27推計1,866〉
・増減率:▲11.8%〈▲21.3%〉



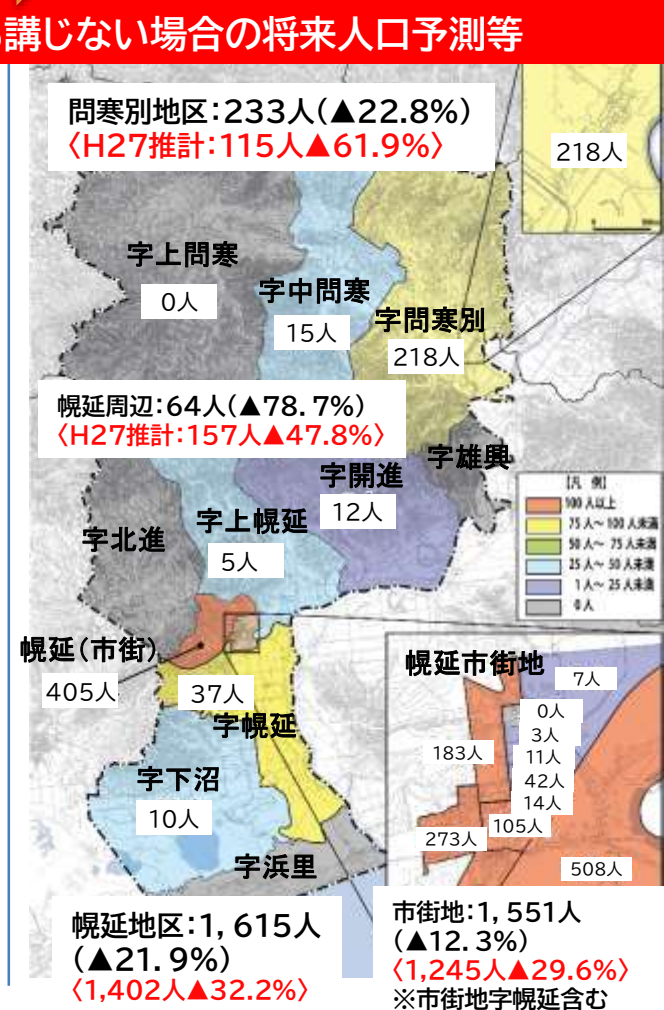
※人口計:国立社会保障・人口問題研究所推計(社人研R2ベース)

※人口分布予測:G空間情報センター 将来人口・世帯予測ツール V3 (R5.12推計)による

※増減率(▲○○%)は令和2年(2020)比

令和22年(2040)人口分布予測

・人口:1,848人(社人研)〈1,517〉
・増減率:▲22.1%〈▲36.0%〉



幌延町・地域コミュニティ形成事業 目標

1. 事業目標

(1) 地域の現状と課題

人口減少、少子高齢化、小家族化で、地域・集落の活力や担い手が不足し、住み続けることに難しさを感じるなど、生活していく上で必要な機能が失われつつある

(2) 地域課題への解決

地域活動、日常生活等支援の拠点と仕組みづくり

- ①「小さな拠点」設置
(集落支援センター(仮))
 - ・支援の拠点施設
- ②「地域運営組織」形成
 - ・拠点の運営主体

(3) 地域の目指す姿

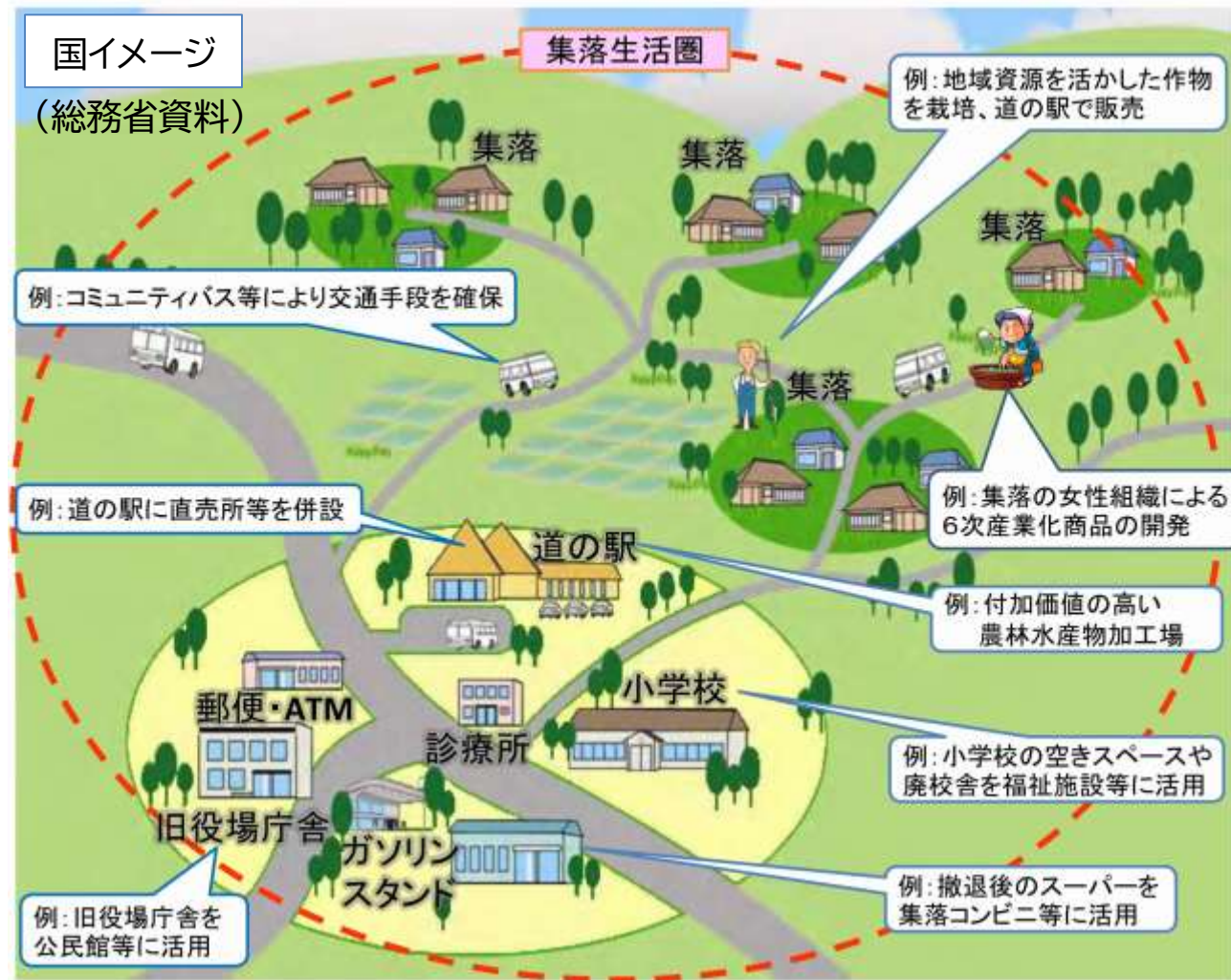
《持続可能な地域集落》

だれもがいつまでも
暮らし続けられる地域集落

「①小さな拠点(集落支援センター(仮))」と「②地域運営組織」

基幹集落と周辺集落で構成される集落生活圏において、安心して暮らしていくために必要な機能を持続的に提供する仕組みが「①小さな拠点(集落支援センター(仮))」で、その運営主体が「②地域運営組織」です。

「②地域運営組織」は、地域住民が中心となり、地域内の様々な関係主体が参加する協議組織が定めた運営方針に基づき、地域課題の解決に向けた取組を持続的に実践する組織です。



幌延町・地域コミュニティ形成事業 これからのまちづくりの姿

問寒別地区・地域づくりビジョンでは、これからの地域活動の担い手として、「地域」・「役場(行政)」・「地域運営組織」の3者による連携・協働を掲げています。

【これまでの地域活動のしくみ】

地域の維持に必要な地域活動や日常生活活動は、主に「地域」と「役場」で担ってきました。

【地域の現状】

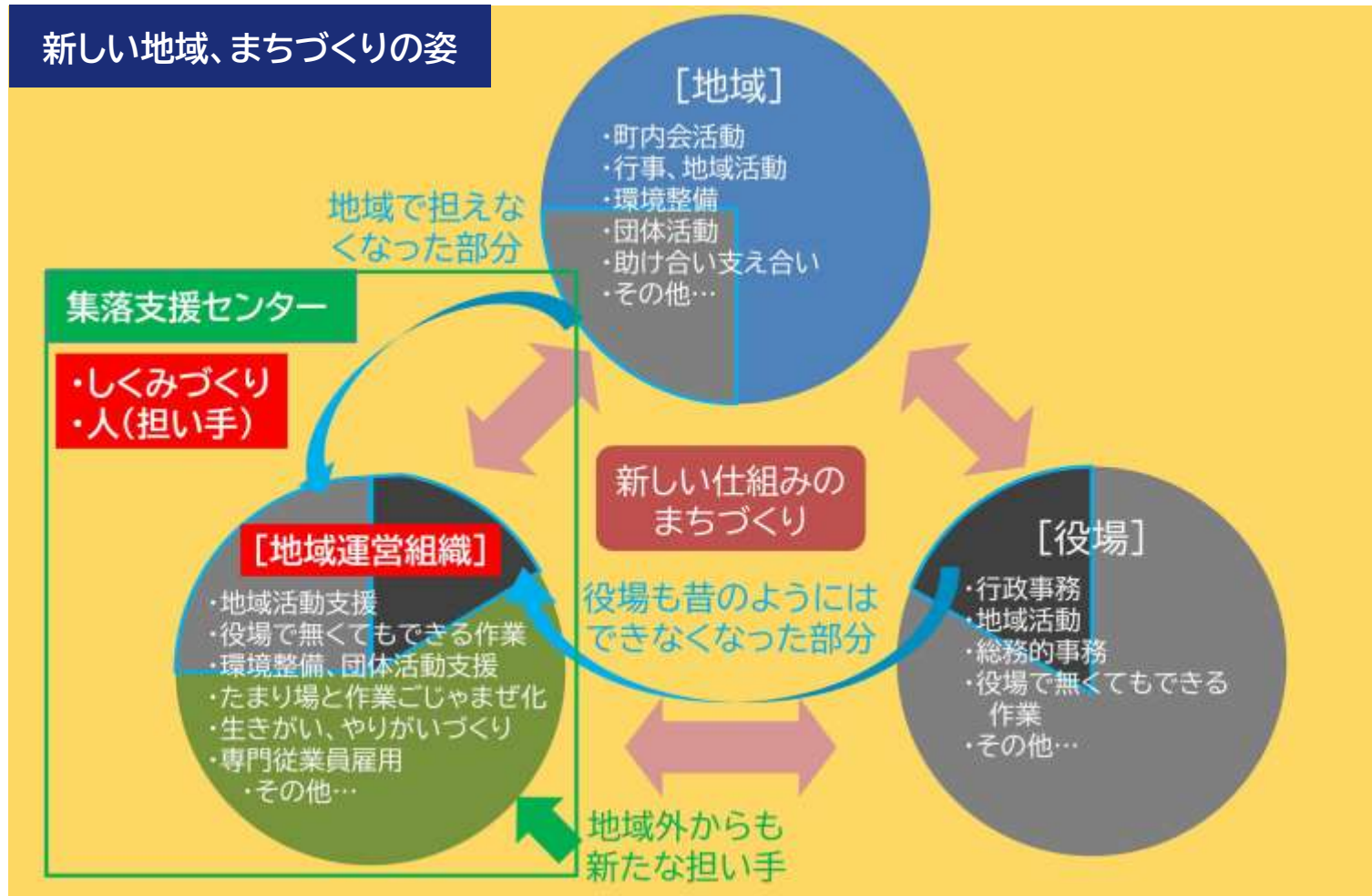
しかしながら、人口減少、少子高齢化、小家族化などで「地域」もこれまでのように地域活動が担えなくなりました。

【役場の現状】

役場も人員減や行政事務の複雑多様化で事務量が増え地域活動をこれまでどおりサポートできなくなりました。

【新しい地域のしくみ】

「地域」と「役場」の担えなくなった部分を、**地域活動を専属で担うスタッフがいる「地域運営組織」**という新たな地域のしくみで地域を維持していきます。



みなさんが、地域ですっと住み続けていくために必要なお仕事

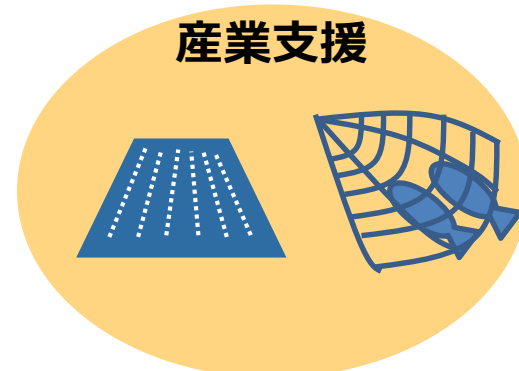
拠点運営



移動



産業支援



インフラ・施設維持管理



災害対応



不定期のお仕事



「地域運営組織」は、地域運営を考えて実践する組織です

- 地域の暮らしを守るため、地域で暮らす人々が中心となって、地域内の様々な関係主体が参加する協議組織が定めた地域運営方針に基づき、地域課題の解決に向けた取組を持続的に実践する組織です。
- 地域運営組織の形態は、協議機能と実行機能を同一の組織が合わせ持つもの(一体型)や、協議機能を持つ組織から実行機能を切り離して別組織を形成しつつ、相互に連携しているもの(分離型)など、地域の実情に応じて様々なものがあります。

問寒別地区・地域運営組織（NPO法人）の地域活動としくみ

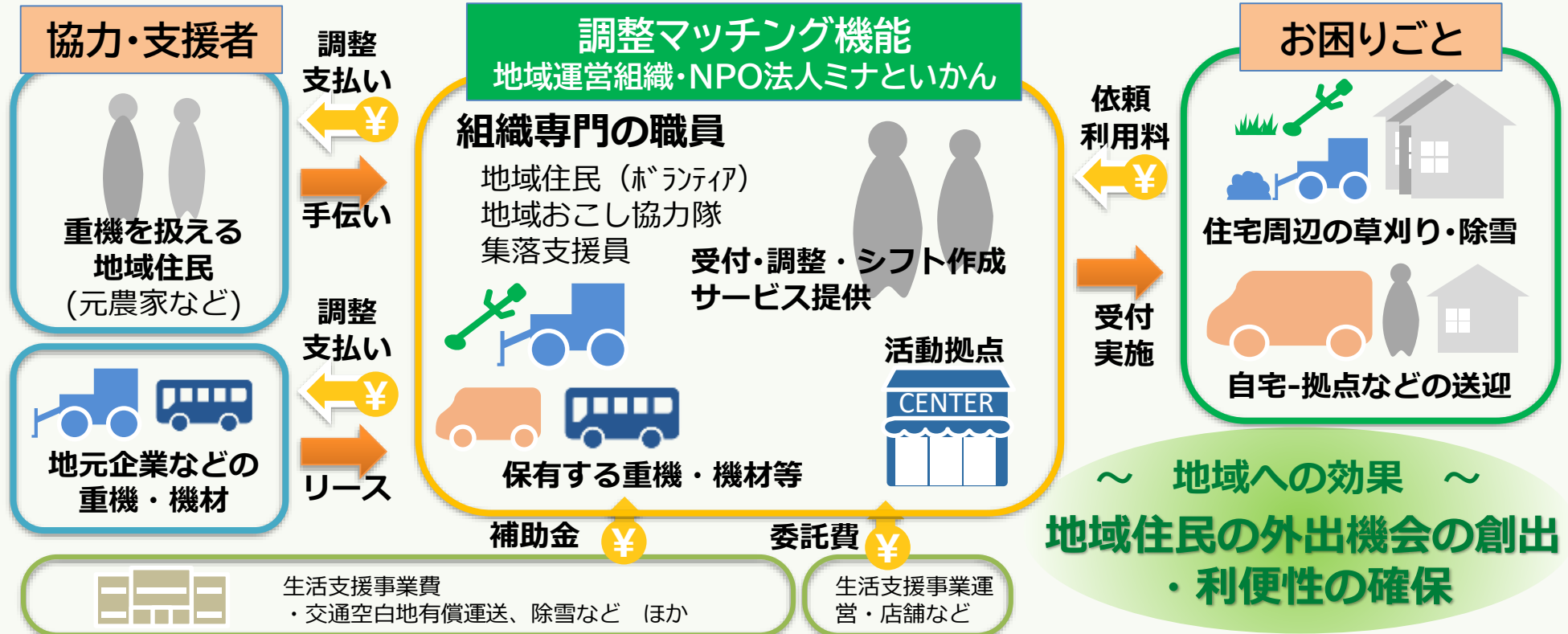
すぐに
取り
組む

時間
を
かけ
取り
組む

- ① **住み続け支援**：地域交通、日常生活の支援などのしくみ
- ② **公共空間の管理**：地域の施設などの管理のしくみ
- ③ **交流・教育**：地域行事、団体活動支援、地域自主活動などのしくみ
- ④ **民間事業支援**：地域のしごと支援のしくみ

たとえば…、「①住み続け支援」とは次のような活動です

○地域運営組織の専属職員や地域のボランティアが、自前や業者から借りた機材を使って、住み続けるために必要な生活の足（地域交通）、草刈り、除雪サービスなどを行います。サービスを受けた住民は利用料を払います。



地域運営システム：上記のマッチングによる支えいのしくみを簡素化省力化するためのしくみづくりを目指します

問寒別での地域運営のしくみと地域運営組織（NPO法人）体制（案）

○これまで地域住民のボランティアで成り立っていた地域活動を、地域運営組織の専属職員が地域ボランティアの協力のもと、必要な取り組みを実践実行することで、地域の負担を軽減していきます。

チェック

②審議会（地区の全体会議：町内会、地域団体・事業者など）

①地域運営組織 NPO法人「ミナといかん(予定)」

④《協議機能》課題解決検討

地域と組織を会員で考える場

【総会】最高意思決定機関

- ・総会で計画や予算などを決めます
- ・町内会の総会のような存在です

正会員：10人以上（議決権）

【理事会】事業会計等執行機関

- ・町内会の役員会のような存在です

理事3人以上（社員職員可）
監事1人以上（理事、職員以外）

連携共有

⑤《実行機能》解決取組実行

組織で考えたことを実践する場

【実行部門】一般の職場と同じ

- ・町内会で行事を実施するイメージ

【専属職員・部会】企画運営実行

- ・事務局（長）：1～2人
- ・地域活動スタッフ：2～3人

【協力・支援者】地域住民

- ・賛助、利用、サポート会員等

【事業実施】

- ・地域交通、草刈り、除雪

②審議会で、①組織がビジョンに沿って事業をしているか確認、評価します

地域づくりビジョンを念頭に、地域課題解決に向けて、③地域の意見やニーズを常に把握して、④正会員や理事などで何をすべきか協議して、⑤専属職員などで取組を実行します

参画

③地域住民・団体

地域の意見を集める井戸端会議（本音トーク）
地域課題に関する意向調査（個別懇談、アンケートなど）

サービス・対価

住民のお手伝い



協力・応援

③地域住民、団体が④組織の構成員として、⑤支援者として参加します

《地域住民・団体の皆さまの関わり方》

④ これからの問寒別の地域を考えて、方向性や方針、計画・予算などに関わる → 正会員(10人必要)

⑤ 地域をよくする取組を、いろいろな方法(会費、お手伝いなど)で応援したい → 賛助会員

ニーズ

地域運営組織設立に向けた取り組み（写真）－ 1



R5.6.1:第1回審議会 地域づくり講演会



R5.10.17:といかん・本音トーク⑥



R5.11.12～15:先進地視察(島根県雲南市)

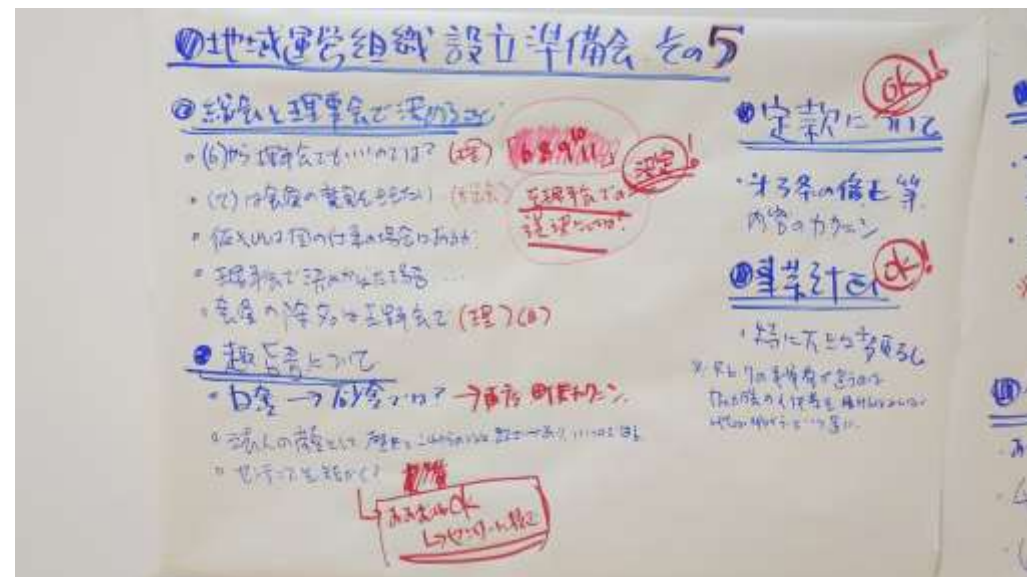


R6.1.18:地域運営組織設立準備会②

地域運営組織設立に向けた取り組み（写真）－ 2



R6.3.25:地域運営組織設立準備会⑤



R6.4.16:設立総会



R6.4.16:法人会員・参加者等記念撮影

地域運営組織・NPO法人ミナといかん 概要

【特定非営利活動法人(NPO)法人ミナといかん】

○設立等	・令和5年度：個別懇談会説明会5回、検討会2回、準備会5回 ・令和6年4月16日：設立総会 ・令和6年6月13日：北海道設立認証承認 ・令和6年7月1日：法人登記
○名称	「ミナといかん」：「ミナ」はアイヌ語で「笑う」の意味で、「といかん」は地域の呼び名です。 ・「といかん」で「みんな」笑顔で暮らしていきたい ・「みなと」のように「みんな」が集まる地域や居場所になってほしい
○組織類型	問寒別地区・地域づくりビジョンに基づく地域運営組織をNPO法人の形態で運営します。
○目的	・地域課題の解決に向けて具体的な取組を協議し、地域に必要とされる機能を提供します。 ・地域の文化や歴史を守り、すべての人がいつまでも安心して健やかに住み続けられる地域づくりに貢献します。
○コンセプト	これまで地域住民のボランティアで成り立っていた地域活動を、地域運営組織の専属職員が地域ボランティアの協力のもと、必要な取り組みを実践実行し、地域負担を軽減するNPO法人です。 ・専属職員が複数業務をマルチにこなしていきます。 ・地域内外のいろいろな世代が活躍できる場を創出します。 ・ボランティアの部分と対価の発生する部分を整理して、しっかり稼ぐしくみをつくります。 ・皆が楽しいと思える運営を心がけます。
○会員	正会員、賛助会員、その他 ・正会員：法人の目的に賛同する個人で、総会の議決権を持ちます。会費は年会費3,000円です。 (農村地区7人、市街地12人、幌延地区1人、計20人) ・賛助会員：法人の目的に賛同して事業を賛助する個人及び団体です。会費は年会費1口500円です。
○役員	・理事：5人（代表理事1人、副代表理事1人、理事3人） ・監事：2人

1. 問寒別モデルの推進

(1) 拠点整備と運営

① 支援拠点施設整備

- ・ 地域活動実験拠点整備
(空家取得、R6改修作業中)
- ・ 実験拠点運営による地域に必要な「拠点」を整理
- ・ 「小さな拠点」である「集落支援センター（仮）」整備

② 地域運営組織の設立と運営

- ・ 「拠点」の運営主体（地域運営組織：NPO法人）立ち上げ（R6）
- ・ 自立的運営体制構築支援



(2) 町支援体制整理

① 「小さな拠点」と「地域運営組織」への支援体制検討整理

- ・ 地域運営組織の位置づけ等に係る条例等整備
- ・ 地域運営組織に対する支援措置等各種規程等整備
- ・ 各種支援措置：一括交付金、補助金、人的支援、町有財産等貸借支援等

2. 町内全体での展開

(1) 問寒別モデルの普及改良版を町内の集落生活圏で展開

問寒別地区 地域づくり・地域運営組織設立 経緯（詳細）

年	町と地域の動き	地域での具体の取組	備考
R元	7月 集落支援員配置 9月 視察（芽室町等） 10月 講演会（安藤氏）、座談会	8月 盆踊り （おためし協力隊）	地域維持取組開始 課題把握、地域連携周知浸透
R 2	1月 講演会（松村氏） 4月 地域おこし協力隊着任 10月 住民ヒアリング	2月 スノーモビルラント （おためし協力隊） 【協力隊による地域活動】 10月 地域交通実験開始	協力隊の実験的取組開始 + 協力隊浸透、実証実験
R 3	2月 役場業務等棚卸し調査 10月 事業者団体ヒアリング	9月 暮らし応援隊開始	基礎調査収集分析
R 4	1月 本音トーク開始 4月 地域づくり基本構想 5月 移動と暮らしアンケート 7月 審議会開始（ビジョン） 役場プロジェクトチーム 10月 視察（芽室町）	【地域プロジェクト】 11月 といかん市開始 共同果樹園開始	本格的に地域での 話し合い・検討・協議開始 + 懇談会、構想、審議会 （ビジョンづくり）
R 5	3月 地域づくりビジョン策定 5月 地域づくりアンケート 6月 地域づくり講演会（川北氏） 10月 本音トーク（組織設立説明） 11月 視察（島根県雲南市） 審議会等（組織設立説明） 12月 地域づくりシンポジウム	【あらたなかたち検証】 8月 問寒別駅100周年 盆踊り	ビジョン完成・推進 + ビジョン推進 地域運営組織設立検討

新型コロナウイルス感染症
まん延による諸活動の停滞

- ・ 個別懇談会(R5. 9～10:2回)
- ・ 検討会(R5. 11:2回)
- ・ 準備会(R5. 12～R6. 2:4回)

令和5年度 地域づくりビジョン推進の取組 - 1

日付	審議会等	地域運営組織	備考
R5.3月	地域づくりビジョン策定		・解決したい6つの地域課題（目標） ・ビジョン実現のための7つの重点項目（ビジョン基本計画）
4月25日	といかん本音トーク①		・地域づくりビジョン、各種プロジェクト
5月	地域づくりアンケート		
6月1日	第1回審議会 地域づくり講演会		・委嘱、ビジョン評価手法検討の進め方 ・川北秀人氏：小規模多機能自治
6月3日	といかん・みんなの市①		・町民会館
6月21日	といかん本音トーク②		・プロジェクト振り返り、展開、講演会
7月1日	共同果樹園①		・種まき、植樹体験会
7月11日	といかん本音トーク③		・プロジェクト振り返り、展開、LINEグループ、仕事棚卸し
8月5日	駅前地域交流会		
8月19日	盆踊り		
8月22日	といかん本音トーク④		・プロジェクト、イベント振り返り
9月2日	といかん・みんなの市②		・生涯学習センター：フリマ
9月7日	第2回審議会		・評価手法概要：ロジックモデル ・地域のしごと棚卸し調査結果（速報）
9月8日	といかん本音トーク⑤ ・振り返り、展開	個別懇談会① ・組織イメージ提案	・令和5年度中に何らかの組織を立ち上げる ・コアな少人数で方向性の確認 ・個々で説明、仲間づくりを進める

令和 5 年度 地域づくりビジョン推進の取組 – 2

日付	審議会等	地域運営組織	備考
10月17日	といかん本音トーク⑥ ・地域運営組織説明	個別懇談会②	・組織設立工程確認：懇談会、説明会、準備会、総会等 ・コンセプト、構成、活動軸、分かりやすい説明資料作成
10月18～ 19日	団体等ヒアリング		・評価手法づくりに向けた各種団体の仕事、活動棚卸し調査 ・11団体：地域団体、サークル、町内会、行事、教育機関等
10月27日	空き家プロジェクト①		・空き家下見意見交換会
10月28日	といかん・みんなの市③		・生涯学習センター：文化祭
10月30日		個別懇談会③	・農協青年部、女性部等
11月9日		設立検討会①	・これまでの議論の住民との共有、理解 ・組織形態、構成員役割、事業内容（スモールスタート）
11月11日	といかん・みんなの市④		・問寒別小中学校第2体育館：少年少女文化祭
11月12～ 15日	先進地視察		・島根県雲南市：雲南市1、地域自主組織5箇所 ・住民8人、町7人、協力機関3人
11月20日	空き家プロジェクト②		・小倉氏現地調査
11月20日		設立検討会②	・組織設立に向けて納得と賛同 ・地域にしっかり丁寧に説明を
11月21日		団体等説明	・日赤ボランティア
11月22日	共同果樹園②		・冬囲い
11月24日		団体等説明	・農協組合員：上中間寒地区、その他地区
11月28日	第3回審議会		・地域運営組織設立の説明：必要性、形態、内容、工程等

令和5年度 地域づくりビジョン推進の取組 – 3

日付	審議会等	地域運営組織	備考
12月7日		設立準備会①	・地域づくりを進める組織の設立準備会発足 ・構成員候補確認
12月12日	第4回審議会 ・トーク「地域づくりシンポジウム」		・道内各地域活動取組紹介と問寒別の地域づくりを検討 ・講師：芽室町蘆田さん、厚真町村上さん事例紹介
R6. 1月18日		設立準備会②	・構成員候補が増え、組織に取り組んでほしい分野洗い出し ・正会員：個人とする
2月14日		設立準備会③	・2グループで組織形態、理事、名称、会費等の大枠検討 ・設立趣旨書、定款（案）を提示
2月26日		設立準備会④	・設立趣旨書、定款（案）の読み合わせ ・正会員、役員候補確定（別途調整）
3月14日		NPO法人相談会	・必要書類等の相談（札幌市）
3月18日	第5回審議会		・地域運営組織設立に向けた経過 ・地域活動評価手法検討
3月25日		設立準備会⑤	・必要書類精査、進捗報告、会員、理事検討
3月27日	といかん本音トーク⑦		・共同果樹園、協力隊活動報告会

令和 6 年度 地域づくりビジョン推進の取組 – 1

日付	審議会等	地域運営組織	備考
4月16日	といかん本音トーク①	設立総会	・空き家プロジェクト③、・組織化
4月26日		理事会①	・諸規程、受託事業、予算、利用料、駐車場
6月4日		なおみちカフェ	・知事懇談
6月26日		理事会②	・諸規程制定、料金料率、受託事業（継続）
8月22日		役員打合せ①	・法人体制
8月30日		役員打合せ②	・法人体制
5月15日		設立認証申請	・北海道：縦覧（2週間）、書類審査（2ヶ月以内）
6月13日		設立認証	
7月1日		法人登記	
7月5日	といかん本音トーク②		・空き家プロジェクト④
9月13日		運営会議①	・予算、アンケート、ボランティア募集、法人体制等
10月18日		理事会③	・財務状況、法人体制、アンケート調査
12月3日		拠点おひろめ会	・11名見学
12月13日		理事会④	・法人運営（決算見込）、アンケート調査、支援事業、保険
12月18日		拠点開業	

問寒別地区・地域づくりビジョン（R4～R5.3）

(1)地域づくりビジョンの目的、あゆみ

目的:いつまでも暮らしやすい地域をつくるため、問寒別地区の未来の姿や、地域づくりに必要な取り組みなどをまとめた道しるべ(令和5年3月完成)

(2)地域づくりビジョンの内容

～ 地域の将来像(スローガン) ～

田舎だからこそ、有るものの活かそう！工夫と協働のといかん

問寒別地区・地域づくりビジョン



本編(出張所配置)



概要編(各戸配布)

解決したい6つの地域課題(目標)

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1 幸せに住み続けられること | 4 新たな地域運営 |
| 2 若者の移住定住の促進と住宅供給 | 5 みんなの居場所(複合拠点)づくり |
| 3 持続的な産業 | 6 生活利便性の維持 |



ビジョン基本計画(ビジョンを実現するための7つの重点項目)

- | | |
|-----------------------------|---------------------------------------|
| 1 ごちゃまぜプロジェクト(たまり場、活躍の場) | 5 ずっと続く産業プロジェクト(といかん共同果樹園) |
| 2 多様な住まいと住み続けプロジェクト(集合住宅) | 6 小さな多機能複合拠点プロジェクト(空き家等活用) |
| 3 子どもは地域で育むプロジェクト(ワラベンチャー) | 7 “当たり前”に新たな価値を吹き込むプロジェクト(といかん・みんなの市) |
| 4 自分ごと地域運営プロジェクト(新しい地域のかたち) | |

地域プロジェクトの紹介

「といかん・みんなの市」(といかん本音トーク・プロジェクト)

・野菜、手工芸品などを持ち寄り、活動発表や評価の場づくり



準備しない、リーダーを置かない、
何かと一緒にやる



「といかん共同果樹園」（といかん本音トーク・プロジェクト）

・地域の協業で新たな産業「ブルーベリー果樹園」を…



卒農後の技術伝承・生きがいづくり、
新たな産業づくり、といかん市販売、
鉄道旅行者へのPR

「ごちゃまぜたまり場拠点」(といかん本音トーク・プロジェクト)

- ・みんなでつくる秘密基地(ごじゃまぜたまり場)づくり



地域の空き家を、地域のプチ拠点にして、みんなで地域づくりを考えよう！

実験拠点：ごちゃまぜネットワーク拠点（プロジェクト）

○みんなでつくり上げることで愛着がわく、秘密基地プロジェクト(スモールスタート)

【物件】

・字問寒別35番(旧農済獣医師住宅)

【目的】

空き家を取得改修し、自分たちでつくりあげるたまり場づくりを進め、本格的な拠点に必要な機能を考え整理し、地域を運営することを学ぶ場とする

【役割】

・町：調査、取得、構造・設備等不備調査改修
・地域：改修案検討、アイデア出し、作業、実験拠点運営等



【スケジュール】

R5.2月	本音トークで空き家利活用として意見あり
5月	所有者様へ相談打診
10月	地域の皆さま物件下見し、ご意見いただく
11月	物件調査改修案提案
12月～	町で物件の買取
R6. 2月～	清掃、現状利用開始
4月	地域住民ヒアリング(懇談会等)
7月～	改修工事
12月3日	住民おひろめ会
12月18日	お引越し・リニューアルオープン



・土地：字問寒別35番、宅地、403.62㎡
・家屋：木造平屋、平成7年築、75.73㎡

地域コミュニティ形成事業 まちづくりのデザイン

地域づくりの拠点整備に向けて、地域の歴史や文化、内外の人の動きなどを検討し、より効果的なポイントに人の心を動かす地域全体の面的空間デザインにより、全体的に調和のとれたまちづくりを進めます。

事業工程(予定)

OR2:問寒別市街地のゾーニング(案)

- ・市街地の動線と機能分類を整理
- ・市街地に期待する姿
- ・地域のサービス拠点のあり方検討
- ・施設の集約、複合化検討



OR3~4:問寒別市街地空き家調査

- ・空き地、空き家の状況確認:7棟調査分析評価

OR5~6:市街地空き家(農済住宅)取得、改修調査

- ・地域活動実験拠点化(スモール拠点・学ぶ場)
- ・現地調査、改修計画案
- ・R5.12~R6.2土地建物取得
- ・R6年度:改修(予定)



OR6:民間賃貸住宅建設支援

- ・町補助制度改正
- ・民間活力による住まい形成支援

OR7~8?:本格地域活動拠点整備

- ・集落支援センター(拠点)整備計画(方法、規模、場所、機能)
- ・設計、工事

R6民間賃貸住宅(AP)建設補助改正内容

- 家賃上限:建設費÷戸数×0.5%(0.55%)
- ①町内事業者で施工:建設工事費の75%(30%)
 - ・1LDK45㎡以上:4,500千円(2,000千円)
 - ・2LDK55㎡以上:5,500千円(3,000千円)
- ②町外事業者で施工:建設工事費の50%(20%)
 - ・1LDK45㎡以上:3,500千円(1,300千円)
 - ・2LDK55㎡以上:4,500千円(2,000千円)

「といかんシェアハウス」(といかん本音トーク・プロジェクト)

・老若男女が暮らし続けることができるシェアハウス

集まって住むよろこび。

にしかぐらアグリコレクティブハウス

●やぐら

田舎の秋め
乾つきの野菜。
洗って、干して。
漬けて、食べて、売る！
共同で加工、技術の継承
管理運営員の保管

《共用の内部空間》

共用加工場。
地域食堂、食事のサービス。
字輩の放課後、おやつと宿題
手仕事の講習会、勉強会
地域の情報の集約、発信。
コミュニティーラジオ
よろず相談デスク、コンシェルジュ
移動販売の店開き

●直売所

野菜、果物、加工品の直売所
オートイン、立ち寄りのひと休み
周辺の観光やイベントの情報

●住居棟

単身者、高齢のひとり暮らし、家族向けなど
暮らしに合わせて選べる住戸ユニット
プライバシーを保ちながら、互いに見守る関係
声掛け、窓の灯り

●内部の路地空間

外のように使う内部、内部のように使う外部
後継者でもお出かけのように

●コモンリビング

住民共有のくつろぎの居間
持ち回りの家具。
大テーブル、ストーブ
住民集会、会議
新年会、クリスマスパーティー。
音楽会
夕食後のお酒、読書、
お昼のお茶会
安否確認当番

●ゲストハウス

集落の客間。
帰省した家族の滞在
農業研修生
移住検討中のお試し滞在

●駐車スペース

アプローチ側に集約
冬場の埋雪帯

●フェンス、舗装

土に還る自然素材で
間伐材、チップ、砂利、古材の再利用

《共用の外部空間》

広場、共有の庭、草取り当番、子どもの見守り
外のキッチン、外の食堂、バーベキュー
日陰のひと休み、花火、夕涼み、
お神楽、クリスマスツリー

●ゲート

コミュニティーの正面玄関
ランドマーク、門灯、表札、旗
生活情報の発信
コミュニティー交通の乗り合い停留所

現役農家
(子育て世代)

農業研修生

高齢高齢者

新規就農家族
(子育て世代・早期リタイア世代)

田舎暮らしを
志す若者

卒農後、若者世代(新規就業、移住等)
の多様な住まい方の検討

参考: <https://www.gwnkagura.org/スマート定住モデル>

「地域の未来の絵」(プロジェクト)

・地域運営をしながら、地域の将来像となるスローガン(地域づくりビジョン)と、地域の将来を表す絵(イメージ)をみんなで描いていきます。



参考：※芽室町上美生地区のビジョン

その他の地域活動（新しいイベントのかたちを模索）

○問寒別駅開業100周年を祝う会・駅前地域交流会(23' 8/5)

- ・開業100年の100日前の週末に100人集めて地域イベントを開催！！
- ・コロナ禍で途絶えていた地域交流の復活、子供たちの夏の思い出づくり、関係人口創出を目的に地域団体を立ち上げて新しいイベントスタイルを検証



○問寒別地区盆踊り(23' 8/19)

- ・地域での伝統イベントの復活に、地域の皆さまと賑やかしのお店を出店し、新しい支援の仕組みを検証

